

財六甲台後援会だより

(22)

母校の充実・発展を願う卒業生

去る9月2日(木)梅田ゲートタワービル8階に、神戸大学梅田インテリジェントラボトリーの開所式と第1回講義が挙行されました。わが神戸大学経営学研究科が産学連携で企業活動の発展に寄与しようという目的で始められたものであります。そういえば、今迄も経営学研究科は、現代経営学研究科を関西財界の皆さんからの寄付金を基に設立し、大阪商工会議所で講演会やシンポジウムを盛大に開催してきました。この度は、大学のバックアップも得て、大阪市内のビルの一室を借り、拠点をつくって産学連携の場にしようという訳です。そこには、凌霄会員の皆さんももちろん招かれて出席しておられ、母校の発展を心から飲んでおられました。

しかし、ラボトリーの運営については、企業経営に苦しんでいる人々の多い今日、ここに来ると本当に救われる気になれるといった切実な要請に応えられる場にしてほしいといった声も聞かれました。いずれにしても、経営学部、それを基礎としたMBAコースを持つ国立大学法人は、関西には、わが神戸大学の他にはありませんし、全国でも一橋大学、慶應義塾大学と肩を並べる存在であることは誰もが熟知しています。これを機会に、現場で苦闘しておられる産業人の皆さんにとって本当に頼りになるラボトリーに成長させ、頂くよう心から祈りたいと思います。

もつとも、その場での卒業生の皆さんの願いは、経営学研究科だけのことではありません。わが法学研究科、経済学研究科や国際協力研究科および経済経営研究所がひとり国内だけでなく、グローバル化した競争場裡に立つ世界の中でも、注目されるものになって貰いたいということでも一致していました。そういえば、有名な英国のタイムズ社の世界の大学ランキングでも、日本の大学の評価は下落する一方です。昨年22位であった東京大学は先日新聞によると26位になり、京都大学は25位から57位に、大阪大学は43位から130位にと大幅に低下しました。わが神戸大学も、かつて200位内には入っていましたが、一昨年来そこからはみ出し、今年度何位になっているかは、近くランキングの本が発刊されるまでは判りません。しかし、こんなことになるのも、世界の主要国が高等教育のために支出する財政支出を、GDP比で1・5%とか、1%とかは維持しているのに、わが国ではただの0・5%しか負担していないということにも起因します。それどころか、国立大学の法人化以来、毎年政府は国立大学の運営費交付金を1%ずつ削減してきましたが、最近の「事業仕分け」や財政支出の腕飯振舞いの中の歳入不足と関連した一律10%削減をすると、国立大学予算は年間約1千億円削減されることになり、これでは大変な事態を迎えることになります。国の経済発展の重要な条件は、自然科学はもちろん社会科学・人文科学を含めた科学的認識の新発見・革新であります。それらもあって各国とも大学や各研究機関の充実を心にかけている時に、わが国だけこの状態では、国の将来が危惧されます。私達はその中で、どん

な事情があらうと、わが母校、特に凌霄会員の学んだ法・経済・経営および国際協力の4分野の一層の充実と発展を図っていかねばなりません。

幸か不幸か、神戸大学の外部資金調達は昨年度、旧7帝大と東京工業大学に次いで、日本の国立大学の中で9位になりました。これまで、神戸大学の上に筑波大学と広島大学とが位置していたのですが、昨年度はそれを抜いて上位に進出したのですから立派という他ありません。しかし、よく調べてみると、その一番大きな原因は、この2、3年皆さんの努力によって達成できた寄付金が大きかったからです。外部資金のうち科学研究費などを比較すると、残念ながらわが神戸大学は、自然科学系の研究所が多い旧帝大や東工大などに比べ格段の差になっています。しかし、これを克服するのは不可能と言わねばなりません。しかし、その点、社会科学系については、旧帝大などと比べてそのような差はもろんありません。なによりも社会科学系5部局をバックアップしているわが六甲台後援会の役割の重要性を今更ながら考えさせられるこの頃です。

最近のご寄付について

平成22年度に入ってから、ありがたいことに皆さんからわが六甲台後援会には、多額のご寄付を頂きました。珊瑚会（昭和35年卒業生の会）からの160万円と段野治雄様（昭40・経済）からの10万円および匿名希望者様（昭35・法）からの200万円がそれです。珊瑚会の皆さんのことについては、既に前号でふれさせて頂きましたが、その際幹事の方から約200万円と言っておられたのをその

まま書かせて頂きました。珊瑚会では、その後、東京凌霄クラブと大阪凌霄クラブとに各々ご寄付されることになり、わが六甲台後援会にはこの金額になった事をお知らせ頂きました。本当にありがとうございます。また、既に皆さんお気付きのことと思いますが、前記匿名ご希望の方は毎年連続して多額のご寄付を頂き、六甲台後援会としては、このように母校への厚い思いの溢れる凌霄人をもつことを誇りに思います。感謝に堪えません。なお毎号書かせて頂いていますが、これで、今年度に入ってから899万円、16年度に皆さんにお願いをはじめてから、今日までに合計2億476万円余りになりました。お蔭さまで、前号でご報告しました凌霄賞をはじめ六甲台5部局の研究・教育の推進に、わが六甲台後援会は何とか貢献できています。いま、公益法人制度の改革による公益財団法人申請の手続きもいよいよ最終段階に近づいて、公益法人対応委員会をはじめ事務局でも一所懸命努めているところです。今後とも皆さんの熱いご支援を心からお願ひ申し上げます。

ところで毎号ご案内していますように、ご寄付手続きは次の通りです。どうかよろしくお願ひいたします。

◎銀行送金の場合（銀行からの連絡に時間がかかり、領収書送付が遅れないようにするため、お葉書でも電話・FAXでも結構です）から、ご送金のことについて事務局にご一報ください。

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金口座 4069496

口座名義 財神六甲台後援会

◎郵便振替の場合(通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください)

口座番号 009800-9-116772

口座名義 (財)神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

(財)神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX(078)861-3013

窓の学園



経済学研究科長就任の挨拶

経済学研究科教授 萩原泰治

11月16日から2年間、経済学研究科長および経済学部長に就任することになりました。果たして私が適切な能力を備えているのか自信はありませんが、2年間の任期を全力で務めたいと思います。本稿では、私たちが最近行っている教育と研究に関する試みを紹介します。

経済学部の学生定員は、現在1年次入学生定員270名と3年次編入定員20名です。これは、神戸大学の中では工学部540名(1年次入学生定員、以下同)、発達科学部280名に次いで、3番目に大きい学部となります。しかし、六甲台3学部と文学部、国際文化学部以外の学部は複数の学科からなっており、学科の定員で数えると逆転します。経済学部経済学科(270名)、経営学部経営学科(260名)、法学部法律学科(180名)が神戸大学で最も大きい3つの学科ということになります。規模の大きさは誇るべきことであ

りますが、学生の教育について散漫になることに注意を払わなければなりません。私たちは、全員に全く同じ教育をして、同じような人材を供給するのではなく、基礎的な能力を身につけた上で、学生の関心に応じた様々なメニューを提供することにより、学生が自主的に何を学ぶかを選択できるように考えています。このような観点から、経済学部の関わっている最近の取り組みを取り上げます。これらは、本誌においても適宜報告されてきているものです。

第1に、EUIJ関西です。EUからの援助を受け、EUに関する教育・研究・情報発信の拠点として神戸大学、関西学院大学、大阪大学のコンソーシアムとして2005年に設立されたEUIJ関西(代表:経済学部久保広正教授)は、EUからも高い評価を受け、現在第2期に入っています。最近時のデータでは、経済学部の学生